

平成 24 年度第 2 回
「川内原子力発電所に係る熊本県・関係 4 市町対策推進会議」
議事概要

- 日 程 平成 24 年 10 月 25 日 (木)
- 10:30～12:30 現地視察【九州電力(株)川内原子力発電所】
 - 14:00～14:35 現地視察【鹿児島県環境放射線監視センター】
 - 14:45～15:45 意見交換【鹿児島県原子力安全対策課】

■出席者 県及び関係 4 市町の防災担当課長 等

■議事概要

①九州電力(株)川内原子力発電所の現地視察

- 川内原子力発電所の概要及び緊急安全対策の実施状況等についての概要説明を受けた後、発電所敷地内に立入。
- 福島第一原子力発電所事故及び国からの指示を踏まえ、緊急安全対策として実施された、高圧発電機車、仮設ポンプ・ホース、移動式大容量発電機、海水ポンプ用モータ予備品の配備状況等を確認。
- 原子力訓練センターでは、津波による全交流電源喪失対応訓練の様態を視察。

【写真①】：概要説明



【写真②】：高圧発電機車



【写真③】：仮設ポンプ・ホース



【写真④】：移動式大容量発電機



【写真⑤】：海水ポンプ用モータ予備品



【写真⑥】：原子力訓練センター



②鹿児島県環境放射線監視センターの現地視察

- ・ 組織体制及び業務内容についての概要説明を受けた後、センター内を視察。
- ・ 監視業務の様様や緊急時環境放射線モニタリングに必要な防護資機材の配備状況等を確認。

【写真⑦】：概要説明



【写真⑧】：大型表示装置



【写真⑨】：防護資機材



③鹿児島県原子力安全対策課との意見交換

- ・ 鹿児島県原子力安全対策課と、安定ヨウ素剤の整備やSPEEDI（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）の活用などについて意見交換を実施。

[主な論議等]

- ・ 安定ヨウ素剤の投与体制の整備やPPA圏域（原発から30 km以遠で防護措置が必要な地域）の対策などについては、今後、国の原子力規制委員会が検討を行い、同委員会が定める原子力災害対策指針に記載することとされていることから、その検討状況等を注視しながら検討していくことが必要。
- ・ SPEEDIの予測結果は有益な情報の一つなので、避難所や避難方法を決めるのに役に立つが、SPEEDIだけではなくいろいろな手段を複合的に使って、対策に活用していくことが重要。
- ・ 原子力防災に関する専門知識を備えた職員の養成は難しい課題であるが、原子力防災訓練を繰り返し実施したり、国や関係機関の養成講座に参加することなどによって研修を重ねていくことが重要。

[以上]